



■2012年_予算等審査特別委員会（第6日目）（2012.03.26）

八王子市一般会計及び各特別会計予算並びに関連諸議案についての意見

◎陣内泰子委員 それでは、市民自治の会、陣内泰子です。2012年度八王子市一般会計及び各特別会計予算並びに関連諸議案について意見を申し上げます。

新年度予算は、新市長のもと、骨格予算として編成したとのことですが、一般会計 1,812 億円、7つの特別会計総額 1,514 億円、合わせて 3,326 億円というほぼ本格予算と言ってもよい編成となっています。3.11 東日本大震災から1年、私たちはこの震災並びに東京電力福島第1原発事故を経験して、命を大切にす政治、自然と共存できる政治へと大きくかじを切らなければならないということを痛感いたしました。しかし、政府は、平成24年度の経済見通しの中で、日本経済は本格的な復興施策の集中的な推進によって、着実な需要の発現と雇用の創出が見込まれ、国内需要が成長を主導するとして、大きな借金と国民負担によって復興の名のもと公共事業主導のばらまきを繰り返そうとしています。そこには、なぜこれほどまでに格差が広がってきているのかといった根本的な問いに対する反省は見られません。

こういった国の時代錯誤の成長戦略に八王子も倣おうとしています。石森新市長は、八王子の市財政は、ふえ続ける社会保障費や先行き不透明な経済状況から予断を許さない状況であると改めて実感したと述べられているのですが、そう言いつつも将来の八王子のために投資すべき事業には積極的に投資していく攻めのまちづくりを行っていくとの考えを示されました。その中身は、川口物流拠点整備事業、旭町・明神町周辺地区開発、インター北地区開発、北西部幹線道路計画などであり、特に川口物流拠点整備については、土地の最大の所有者である住宅・都市整備公社の評議員にこの事業を進めてきた前黒須市長が就任したことから、だれのための攻めのまちづくりなのか疑問を持つところです。しかし、今本当に攻めのまちづくりは必要とされているのでしょうか。必要なのは市民生活の安心をどうつくり出すのか、そのことが第一に優先されなければなりません。

2012年度、国民健康保険税 13 億円、後期高齢者医療保険料 4.8 億円、介護保険料 10 億円増で、総額にして 27.8 億円も住民負担がのしかかります。また、年少扶養控除の廃止で、13 億円の市税収入増になるとはいえ、所得税、住民税の負担増と引きかえです。特に国民健康保険税のアップは所得が低い世帯に大きな影響を及ぼすことになっています。また、高齢世帯にとっても年金が引き下げられるのに加え、国保、介護保険料等のアップでダブルパンチでもあります。税金からの繰り入れも 99 億円余りとなり、国保運営の健全化をという声もありますが、国の支援をさらに求め、値上げには反対です。

健康、命を担保する医療、介護保険料の三つどもえの値上げに加え、税収も前年比 6 億円の減の 899 億円となっていますが、既に 2011 年度の収入見込みにおいて 19 億円減であることから、この予算額を確保することは大変厳しいものと予想されます。となれば、少しでも歳出を抑え、市民の安心へとつながる事業へと振り分けることが重要であることは言うまでもありません。

事業予算についての具体的な意見を述べさせていただきます。

新市長のもとでの予算編成ということで、時間も限られ、担当部局の御努力は大変だったと想像いた

します。そのような中、今時代が抱える問題、並びに市が抱える問題をどうタイムリーに事業化し予算づけるかということと言うならば、景気雇用対策として若者支援の取り組みが行われ、評価をいたします。中小企業支援のさらなる有効策になることを期待するとともに、また、緊急雇用創出事業臨時特別補助金については、仕事のつくり方など利用しやすい工夫をお願いいたします。また、学生向けの取り組みが進められることについては、基本的にはパーソナルサポートであり、きめ細やかな支援が必要です。学生サポート事業と一緒に、雇用支援とともに青少年育成、教育部署との連携をしっかりとっていただきたいと思えます。

衛生費についてです。中核病院への支援が一挙に増額となりました。がん対策特別補助として、2012年限りということではありますが、それぞれの病院に1億円ずつで計2億円。そして、高度専門医療支援として別に2病院に対して5.5億円の支援を行います。それぞれ今までの支援に比べて1.5倍、2.5倍というものであります。小児医療対策は別に支出されています。何ゆえに一挙にこれだけの支援増となるのか十分な説明がなされていません。不透明さがぬぐえません。中核病院への支援の必要性は十分認めますが、市税で行う病院支援として何を行うのか、その根拠と支援対象を明確にすべきです。

教育費についてです。市長への所信表明質問、総括質疑の折にも伺いましたが、学校図書館司書配置のための地方財政措置がなされ、2校に1人、1日6時間、週5日、1時間単位1,000円で見積もられた学校図書館担当職員配置費用が基準財政需要額に見積もられています。学校図書館司書を配置しないとの答弁は市民の声を全く無視したものであります。市民からの要望、議会での質問等、何度も繰り返されています。しかも、読書のまち推進計画にも、データベース化の次なるステップはスタッフ配置となっていますし、また、この総合計画素案を提出した市民会議からも陳情、指摘がなされているわけです。しっかりと市民の声、議会の声を聞き、計画に従って実施していただきたいと思えます。5年ほど前に500万円かけて実施した3校のデータベース化が無駄な支出になってしまったという失敗を繰り返さないでください。9,000万円かけて実施したデータベース化を有効に活用するには、図書館専門職員が必要です。

八王子駅北口駅前広場改善についてです。マルベリーブリッジの延伸工事が2012年度予算で2億4,000万円計上され、来年度までの2ヵ年工事、総額13億8,000万円の工事となっております。この計画については総括質疑並びに分科会等でもさまざま疑義が出ております。京王八王子駅との一体改善をすると言いながら、なぜ今この部分だけの延伸工事を始めるのか。西放射線並びにバスデッキなどとの連絡はどうなっているのか。中心市街地活性化基本計画が見直しになっているので、そのときの課題ではないか。

旭町・明神町周辺調査も行われる予定であり、その整合性はどうか。京王プラザホテル前の危機回避というには、調査並びに人の流れの分析が詳細になされていない。事故分析もやっていない。地上に誘導しても歩車分離にはならず、京王プラザホテル前の危機回避には至らない。その場合の危機回避策は何ら検討されていない。バリアフリー基準を満たしていない。狭い三角地帯にエスカレーターとエレベーターを設置することでかえって危険になる。地下通路を目的をもってつくったはずにもかかわらず閉鎖する理由は何か。1度つけたエスカレーターの移動もあり得るなどなど、計画の不十分さが露呈いたしました。

駅前広場改善はしっかりとした全体の改善計画、事業計画、積算見積もりがあって初めてどこから着手するのかという順番で行われるものであり、また、中心市街地活性化基本計画や旭町・明神町地区周辺整備との整合性もあってしかるべきと考え、そごうが閉店した今、新たな駅ビルが開店してからでも遅くはありません。駅前ブリッジ全体の改善計画の見直しも立っていない。その可能性さえもはっきり

しない中で、机上のイメージ図を示し、やれるところから工事を始めるというのは余りにもお粗末なやり方ではないでしょうか。工事着工の凍結を要望いたします。

最後に、放射能対策についてです。残念ながら、2012年度予算で具体的な放射能対策関連費用は見積もられていません。6月ごろに設置される消費者庁から貸与の検査機器の必要経費は補正予算でということですが、1台だけでは、100校以上ある学校給食の食材検査は不十分ですし、八王子の農家の野菜、土壌検査も必要です。新たな機械の購入なり検査拡大のための費用が必要です。また、空間線量検査は12カ所の定点観測になるとのようですが、学校や保育園の教育施設は1施設2カ所しかはかっていません。放射能の不安をぬぐっていません。

市民とともにさらなる検査測定、そして、除染ガイドラインに沿っての除染作業など、地道な努力を続けてください。同時に測定値の公表も速やかに行い、市民の健康を守る努力をしていただきたいと思います。そして、そのためには今いろいろな担当がそれぞれの部署で行っているのですが、放射能対策室といった組織横断的な取り組みにすべきです。東京電力福島第1原発事故の終息はまだまだ見えてきていません。そして、放出された放射性物質の影響がなくなるまで、まだまだ気の遠くなるような時間を要します。しっかりと監視していかなければなりません。

そして最後に、原発事故を受け、市民の自由な活動を制限して節電を積極的に呼びかけてきた市役所は、電力の無駄遣いと批判されている自動販売機を本庁舎を含め17台もこの期に及んで設置するということが矛盾した施策と言えます。市としての一貫性を欠くものであることを指摘して、私の意見いたします。